平成 20 年度

病害虫発生予察注意報（第２号）

平成 20 年 6 月 9 日
茨城県病害虫防除所

ネギべと病の防除を徹底しましょう！

［発令の内容］
作物名：ネギ
病害虫名：べと病
発生量：多い
発生地域：県下全域

［発令の根拠］

① ６月上旬現在，ネギべと病が県内全域で多く発生している。また，県発生予察圃（園芸研究所，笠間市）の無防除区におけるべと病の発生も多い（表１）。

② 向こう１か月の天気は，平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され，発生を助長する気象条件である。特に低温，多雨条件が続く場合には発病の伸展に注意が必要である。

表１　ネギべと病の発生状況

地域（調査地点数）	本年（6 月上旬）		参考（5 月下旬平年）		参考（6 月下旬平年）	
	発病度[1)]	発生地点率(%)	発病度[1)]	発生地点率(%)	発病度[1)]	発生地点率(%)
県北（2）	15.2	100	3.9	31	12.3	75
県南（2）	8.4	100	1.0	22	3.5	50
県西（5）	6.6	80	1.0	36	3.0	46
全県（9）	8.9	89	1.7	40	4.6	51
県予察圃（無防除）	26.0	―	13.1	―	18.3	―

１）1 圃場当り 25 株について発病の有無を調査し，葉の病斑面積から次式によって算出した値

発病度＝（4A＋3B＋2C＋D/4×調査株数）×100

A：全葉面積の 31%以上に病斑が認められる。

B：全葉面積の 21～30%に病斑が認められる。

C：全葉面積の 11～20%に病斑が認められる。

D：全葉面積の 1～10%に病斑が認められる。

［防除対策］

① 病気が圃場全体に伸展すると，薬剤防除の効果が劣る場合がある。初期防除に重点をおいて散布を行い，その後の発病伸展に注意する（表２）。なお，前年発病が多く見られた圃場では発生に特に注意する。

② 薬剤散布後は発病状況を確認し，効果が得られない場合は，他系統の薬剤を使用する等，追加防除を行う。

③ 薬剤散布は展着剤を加用し，かけむらのないよう丁寧に行う。また，薬剤を散布する際は，収穫前日数に十分注意する。

④ 肥料切れや多肥栽培を避け,適正な肥培管理を行なう。

⑤ 発病の激しい株は,伝染源となるので,出来るだけ圃場外に持ち出して処分する。

表２　ネギべと病に登録のある主な薬剤（平成20年６月１日現在）

薬剤名	希釈倍数 （倍）	収穫前日数- 本剤の使用回数	有効成分- 有効成分の総使用回数
ランマンフロアブル	2000	3-4	シアゾファミド-4
アミスター20 フロアブル	2000	3-4	アゾキシストロビン-4
アリエッティ水和剤	800	3-3	ホセチル-3
フェスティバルC水和剤	1000	14-3	ジメトモルフ-3，銅 - -
ダコニール1000	1000	14-2	TPN-3（但し，土壌潅注1，散布2）

※ 農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・回数・注意事項等を確認のうえ使用して下さい。また，薬剤散布の際は，周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意してください。